

---

# 第69回接続料研究会の追加質問に対する回答

---

**2023年4月18日**  
**株式会社NTTドコモ**

**トラヒック・ポンピング関係（佐藤先生）**

問1 貴社においてトラヒック・ポンピングによる被害額が毎月いくら程度と想定できるか、試算値を示してください。

**回答**

構成員限り

**トラヒック・ポンピング関係（佐藤先生）**

問2 トラヒック・ポンピングに対する事業者としての対応策について、既に実施してそれなりの成果のあったものを示してください。さらに、今後、実施する可能性のある対応策をお示してください。

**回答**

構成員限り

**トラヒック・ポンピング関係（佐藤先生）**

問3 トラヒック・ポンピングに対して貴社が対応策を講じる上で、課題となっている点や、制度的な手当が必要であると考えられる点があればお示し下さい。

**回答**

➤ トラヒック・ポンピングに対して対応策を講じるうえでの課題は以下のとおりです。

構成員限り

➤ 上記の課題を踏まえると、制度的な手当が必要であると考えられる点は以下のとおりです。

- 接続料の裁定方針において、接続料水準が適正であることを証明できず、長期増分費用モデル等の他の費用等を用いることが適当ではない場合には、ビル&キープ方式を採用できるような仕組み
- 事業者から総務省（料金サービス課）への申出により、トラヒック・ポンピングへの関与等が疑われる場合は、その所在を明らかにする等の仕組み